



世の中
ちょっと
良くなる部
SIP's Team for an Inclusive Society

Press Release

報道関係各位

 戦略的イノベーション
創造プログラム

2025年10月

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」
筑波大学、SWC首長研究会

2025.10.27

現役中高生 × 首長18名・地銀役員 社会課題に挑む、白熱ディスカッション！ ～未来会議コンソーシアムと玉川学園が協定締結 本格活動へ～



戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」の未来会議コンソーシアムでは、2025年10月27日(月)、筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、Smart Wellness City 首長研究会が主催し、筑波大学スマートウェルネスシティ政策開発研究センターが共催する「世の中ちょっと良くなる部/スペシャルセッション」を開催しました。

全国から集まった18名の首長と玉川学園の中高生代表らが、「女性の健康と働きやすさ」「人生100年時代」をテーマに意見を交わし、次世代から見た社会課題への提言を行いました。また、本プログラムの一環として、武蔵野銀行が筑波大学と連携し、中小企業経営者のリスクリングを通じた「Well-being 経営モデル」を発表。地域金融機関としての立場から、女性活躍と企業生産性の両立を支援する新たな取り組みを紹介しました。

■オープニングアクト

開会に先立ち、スマートウエルネスシティ健康大使で歌手の普天間かおり氏が登壇。「ハレルヤ」と題した日本語オリジナル曲を披露し、会場は拍手の中でセッションが開幕しました。



普天間 かおり 氏(スマートウエルネスシティ健康大使、歌手)

■「世の中ちょっと良くなる部」ローンチ宣言

冒頭では、SIP「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」プログラムディレクターで筑波大学の久野譜也教授が登壇し、SIPにおける包摂課題の取り組みを社会的なムーブメントへ発展させるPR活動として、「世の中ちょっと良くなる部」を正式にローンチしました。久野氏は「日本では社会課題に事後対応することが多いが、グローバル競争の中では良い方向に早く仕掛けていくことが大事」と述べ、「その際、大人だけが考えるのではなく、5～10年後に社会の中核となる中高生が参加することが不可欠」と強調しました。また、「玉川学園がこの趣旨に共感し協定を結んでくれた。弱い人を助ける取り組みは上から目線になりがちだが、当事者が一歩踏み出せる自律性を高めることが重要。中高生にはすでに自分の考えがある。彼らと共に社会改革を推進していきたい」と語りました。



久野 譜也 教授(筑波大学大学院 人間総合科学学術院)

■セッション①

冒頭、久野譜也教授より、「筑波大学と武蔵野銀行が協働開発しスタートする中小企業経営者向けリスティングプログラムは、女性に選ばれるためのウェルビーイング経営の導入をテーマとした日本で唯一のプログラム」であり、12月より開始することが紹介されました。あわせて、月経前症候群や月経痛などにより生産性が48%まで低下するという調査結果とともに、女性特有の健康課題による社会全体の経済損失は3.4兆円に上るという試算が示されました。一方で、中小企業経営者の認識はまだ十分ではなく、①人口減による労働力不足 ②生産性向上 ③地方創生 といった社会課題に対応するためにも、女性活躍支援を強化する必要性を語りました。

続いて、武蔵野銀行 長堀和正頭取が登壇。「なぜ地方銀行が大学と組み、中小企業経営者と共にウェルビーイ

ング経営支援に取り組むのか」について触れ、「人口減少・高齢化により、中小企業の事業継続が困難になることは地域に大きな影響を及ぼす。女性の健康度の低さと、それを生み出す問題の解決が、地域のウェルビーイング最大化へつながる」と説明しました。また、課題として①女性の役割への偏見 ②健康リテラシーの低さ ③制度を使いづらい企業風土を挙げた上で、「女性の健康管理に知識がほとんどなく、ハラスメントと言われるのも怖い」といった現場の声を紹介しました。その上で、正しい理解から行動につなげるリスクリングの必要性を訴えるとともに、武蔵野銀行の経営理念である【地域共存・顧客尊重】につなげていきたいと意欲を示しました。



長堀 和正 取締役頭取(武蔵野銀行)

これに対し、玉川学園高校2年の松澤凜歩さんが生徒代表として登壇。松澤さんからの「地域と共に作る持続可能な社会とは具体的にどういう姿か」「埼玉県の地域特性をどのように全国活性化につなげるのか」という質問に対し、長堀頭取は、埼玉県について「人口730万人を超え、住みたいまちランキング上位の市区も増えるなど暮らしやすさが大きな強みだ。一方で、全国一のスピードで高齢化が進むという特徴もある」と説明。そのうえで、「企業が事業を続けたい、若い世代が住み続けたいと思える社会にするために、地銀だけでなく地域や大学と協働・共創し、埼玉で先進事例を創りたい。それを埼玉だけで終わらず、他の地銀や大学とも連携しながら全国へ横展開し、日本全体の活性化につなげていきたい」と述べました。



松澤 凜歩 (玉川学園生徒代表 高校2年)

■玉川学園生による歌披露

セッション①に続き、玉川学園生徒24名により、「わたしたちの未来会議」の最初に毎回、歌唱されるという男女混声合唱「生活の歌」から「夢讃歌」が披露され、会場は温かな拍手に包まれました。



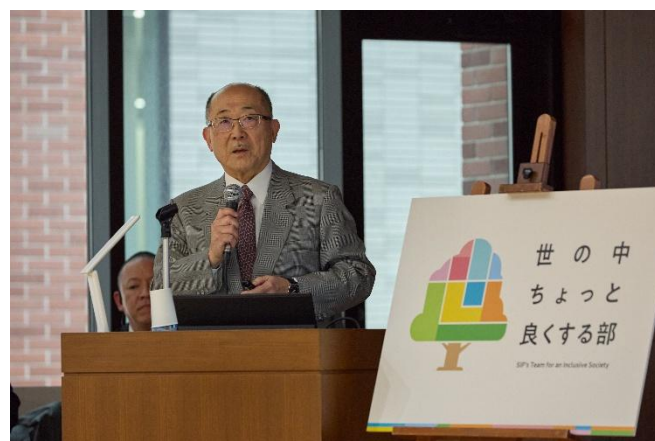
■セッション② 「中高生の世の中ちよっとよくする部活動から首長への提言」－女性の健康と働きやすさと人生100年時代に向けた提言－

「世の中ちよっと良くする部」が取り組む「わたしたちの未来会議」について、久野譜也教授は「大人だけの世界では、しがらみにより前に進みにくいことがあるが、若者の力で一気に動き出すことができる。こうした取り組みを全国に広げ、社会を変えていきたい」と述べ、参加首長の自治体にも学校を巻き込んだ参画を呼びかけました。



久野 譜也 教授(筑波大学大学院 人間総合科学学術院)

続いて、玉川学園の小原芳明理事長が登壇し、玉川学園が取り組むことについての意義を「通常の学校教育の科目では出来ない学びの機会を与えることが大切。前例主義ではなく、正しく行動し、時には失敗の経験を積むことが、最終的な成功につながる」と強調しました。



小原 芳明 理事長・学園長(学校法人玉川学園)

その後、生徒代表の竹内優希菜さん(高校3年)が「女性のWell-being」、小嶋唯愛さん(高校1年)が「人生—100年時代」をテーマに、それぞれ首長らへ政策提言を行いました。

竹内さんは「男性が家事をすると褒められ、女性がしても当たり前と見なされる。女性特有の健康課題が社会参画を阻む社会自体を見直すべきだ」と指摘。具体策として、小学生以下の児童とその保護者を対象に高校生が性教育を行う【三つ子のたましいプロジェクト】、生理休暇を気兼ねなく取得できる社会を目指す【Well-Sleebeing】の2つを提案しました。「社会を変える責任は大人だけでなく若い世代にもある。若者の構想力と大人の実現力で社会を変えたい」と強く訴え、会場から大きな拍手が起こりました。



竹内 優希菜(わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 高校3年)

一方、高校1年の小嶋さんは、「今の10代は<長生き=不安>という感覚を抱いてしまう。医療費や介護の大変さが重荷の連鎖に見えている」と述べ、「誰もが歳を重ねたいと思える社会には、孤立せず支え合う仕組みが必要だ」と呼びかけました。提言として、プロスポーツ選手との運動を通じた【交流】、アウトプットを習慣化する【日記】、世代間交流や達成感を通じて生きがいを再発見する【高齢者演劇】の3つの政策を掲げました。参加した首長たちは深く頷き、その必要性に強く共感していました。



小嶋 唯愛(わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 高校1年)

■トークセッション「女性の健康と働きやすさ」「人生100年時代」…

現役中高生×首長18名 社会課題に挑む、白熱ディスカッション！

締めくくりとして行われたトークセッションでは、久野譜也教授のファシリテートのもと、全国の首長18名と生徒代表が、前セッションの提言を踏まえて活発な意見交換を行いました。



左から、久野 譜也 教授(筑波大学大学院 人間総合科学学術院)
 小原 芳明 理事長・学園長(学校法人玉川学園)
 磯中 克哉(武蔵野銀行 執行役員総合企画部長)
 竹内 優希菜(わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 高校3年)
 小嶋 唯愛(わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 高校1年)
 豊岡 武士 市長(静岡県三島市)
 川田 翔子 市長(京都府八幡市)

京都府八幡市の川田翔子市長は「竹内さんが指摘した“女性特有の健康課題が社会進出を阻んでいる現状を見直すべき”という点に強く共感した。女性首長は全国で3%に留まり、国会議員よりも低い水準。そのために、女性の問題を当事者でないが故に解決すべきことと捉えることが難しかったことが、女性たちの苦勞につながっている」と述べました。



川田 翔子 市長(京都府八幡市)

静岡県三島市の豊岡武士市長は「日本の高齢者は人口の約3割を占める。世代を超えて仲良く暮らせる社会が重要」と語り、「世代の分断が固定化している。もっと話す機会が大切だと思う」と小嶋さんは応じました。



豊岡 武士 市長（静岡県三島市）

新潟県見附市の稲田亮市長は「高齢者の活躍の場づくりについて市として取り組んできたが、日記や高齢者演劇などの提案も参考にしたい。女性が再び地域に戻れる制度設計にも取り組みたい」と述べました。



稲田 亮 市長（新潟県見附市）

オンライン参加の新潟県加茂市の藤田明美市長は、「自分が高校生の頃と比べ、女性が生きやすい社会になったと実感しているが、まだ気づけていない課題があることに今回気付かされた。また、医療費の課題についても同様に思うところがあり、若い人に予算を振り向けることは市長就任から取り組んできた。批判もあるが、高齢者から『次の世代のために使ってほしい』という声も多く聞く。世代間対話が分断を防ぐ鍵であり、自ら自己表現していくことが大事という点は今回参考になった」と述べました。



藤田 明美 市長（新潟県加茂市）

山形県南陽市の白岩孝夫市長は「アンコンシャスバイアスという言葉に10代で気づいていることに驚いた。自衛隊で女性が責任者に抜擢されたニュースを見て、自分の中の思い込みに気付かされた」と率直に語りました。



白岩 孝夫 市長（山形県南陽市）

武蔵野銀行の磯中克哉執行役員は「高校生が社会を変えようと一生懸命に上げた声を、どう生かすかを大人が考えることが、若者の力になる。銀行でも若手の声を取り入れ、経営陣も具現化に取り組んでいる。今後も若い世代の声を積極的に聞いていきたい」と話しました。



磯中 克哉(武蔵野銀行 執行役員総合企画部長)

こうした首長たちの意見を受け、小嶋さんは「リサーチをするまでは、長生きしたくない10代が多いことを実感していなかった。100年も生きられるのに生きたくないのは矛盾していると思う。誰もが長生きしたくなる社会と一緒に変えていきたい」と呼びかけました。

竹内さんは「私たちには大きな場で周知する力がないが、今回多くの大人に理解してもらえたのが嬉しい。同世代とは議論できても、大人と話し合う機会は少ないと気づいた。こうした場をまた設けてほしい」と意欲を見せました。

◆(注1)内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム」(SIP)

行政の枠や旧来の分野を超えたマネジメントによってイノベーション実現のために創設した国家プロジェクト。内閣総理大臣を議長とする内閣府総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)が司令塔となり産官学連携をはかり、基礎研究から実用化・事業化、すなわち出口まで見据えて一貫通貫で研究開発を推進しており、2023年度から5か年を第3期とし

て14の課題に取り組んでいます。本プロジェクトは、この14課題のうち「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」において、研究開発の一環として実施しているものです。

◆(注2)「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」

包摂的コミュニティとは、「寛容性」と「自律性」を備えたコミュニティのことです。本コミュニティの形成には、すでに心身に高いリスクを抱えている人々へのアプローチだけではなく、その状態に至る前段階の人々を早期に発見し、守る仕組みとしてのポピュレーション・アプローチが重要です。健康無関心層が健康行動に向かうことや、住民のまちづくりや互助への参画など、人々の価値観や行動を変える「社会技術」の開発を行い、多様な個人を受容する「寛容性」と一人一人が主体的に行動する「自律性」を備えた社会の構築を目指しています。

◆(注3)「世の中ちょっと良くする部」

内閣府が主導するSIP(戦略的イノベーション創造プログラム)は、社会課題を解決するための国家プロジェクト。そのテーマの一つである「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」は、誰もが安心して関われる社会づくりのための“場”や“仕組み”をつくる取り組みです。その実現に向けた活動を「世の中ちょっと良くする部」と名付け、さまざまな領域で具体的なアクションを進めています。

◆(注4)連携協定

玉川学園と「戦略的イノベーション創造プログラム第3期「包摂的コミュニティプラットフォームの構築 未来会議コンソーシアム」との主な連携内容は以下の通りです。

1. コンソーシアムは、玉川学園に対して多様性・包摂性教育の先進事例やワークショップ、共同研究、発信活動の機会を提供
2. 玉川学園は、教育現場での実証や社会浸透、若年層・保護者層への波及効果、科学的エビデンス拡充の機会を提供
3. 双方の人材交流を通じ、協定の目的達成に向けた活動を促進
この協定により、中高生が社会課題を自分事として学び、議論や提言を通じて社会に影響を与える教育プラットフォームが構築されます。

◆(注5)SWC(Smart Wellness City) 首長研究会

2009年に「ウエルネス＝健幸」をまちづくりの中核に据え、住民が健康で元気に暮らすことができる新しい都市モデル「スマート ウエルネス シティ」構築を目指す自治体首長が集まって発足。2025年9月時点で、42都道府県の133市区町村の首長が参加しています。

【セッション概要】

日時:2025年10月27日(月)13:15-15:00

会場:筑波大学東京キャンパス文京校舎 B1階 多目的講義室

主催:Smart Wellness City 首長研究会

共催:筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター

後援:(一社)スマートウエルネスコミュニティ協議会

プログラム内容:

●オープニング・オープニングアクト

- ・スマートウエルネスシティ健幸大使 普天間かおり(ふてんま・かおり)

●「世の中ちょっとよくする部」ローンチ宣言

- ・筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授 久野譜也(くの・しんや)

●セッション①「中小企業を元気にする女性の健康と働きやすさを基盤としたWell-being経営」

登壇者:

- ・筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授 久野譜也(くの・しんや)
- ・武蔵野銀行 取締役頭取 長堀和正(ながほり・かずまさ)
- ・玉川学園生徒代表 松澤 凜歩(まつざわ・りほ)

●玉川学園生による歌披露

- ・玉川学園生徒24名

●セッション②「中高生の世の中ちょっとよくする部活動から首長への提言」

－女性の健康と働きやすさと人生100年時代に向けた提言－

登壇者:

- ・筑波大学大学院 人間総合科学学術院 教授 久野 譜也(くの・しんや)
- ・学校法人玉川学園 理事長・学園長 小原 芳明(おばら・よしあき)
- ・わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 竹内 優希菜(たけうち・ゆきな)
- ・わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 小嶋 唯愛(こじま・ゆな)

●トークセッション「女性の健康と働きやすさ」「人生100年時代」

… 現役中高生×首長20名 社会課題に挑む、白熱ディスカッション！

登壇者:

- ・SIP「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」プログラムディレクター 久野 譜也(くの・しんや)
- ・三島市長 豊岡 武士(とよおか・たけし)
- ・八幡市長 川田 翔子(かわた・しょうこ)
- ・わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 竹内 優希菜(たけうち・ゆきな)
- ・わたしたちの未来会議 玉川学園生徒代表 小嶋 唯愛(こじま・ゆな)

有識者:

- ・学校法人玉川学園 理事長・学園長 小原 芳明(おばら・よしあき)
- ・武蔵野銀行 執行役員総合企画部長 磯中 克哉(いそなか・かつや)

【本件に関する報道関係者のお問合せ先】

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム 第3期包摂課題 広報事務局

e-mail housetsu.sip.kouhou.fieldbook@gmail.com

担当者:磯久(イソヒサ)

【登壇者プロフィール】



久野 譜也(くの しんや)

筑波大学大学院人間総合科学術院 教授
スポーツウエルネス学学位プログラム スポーツウエルネスマネジメント分野長
筑波大学スマートウエルネスシティ政策開発研究センター長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)
「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」プログラムディレクター
筑波大学大学院博士課程医学研究科修了。博士(医学)。2002年に健康増進分野日本初の大学発VB株式会社つくばウエルネスリサーチを設立。代表取締役社長兼任。科学的根拠に基づいた高齢化社会に対する日本の健康政策の構築を目指して2009年全国9市長とSmart Wellness City首長研究会を立ち上げ、現在42都道府県133市区町村に拡大。主な要職として、国(内閣府、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、等)、都道府県、基礎自治体の各種委員を歴任。なお現在、スポーツ庁は、スポーツ審議会委員 健康スポーツ部会部会長等を務める。著書に、「70・80・90歳の若返り筋トレ」(NHK出版)、「60歳からの『筋活』一生歩ける・動ける体のつくり方」(三笠書房)、「筋トレスイッチ」(草思社)などがある。



長堀 和正(ながほり かずまさ)

武蔵野銀行 取締役頭取
1961年埼玉県草加市出身。1984年、立教大学卒業後、武蔵野銀行に入行。戸田西支店長、越谷支店長を経て2010年に総合企画部長に就任。同行初の長期ビジョン「MVP(Musashino Value-making Plan)」の策定を主導し、預金・貸出業務とコンサルティング業務とともに成長させていく事業構造改革に取り組む。2019年に頭取就任、2023年には「多彩な価値を結集し、地域No.1のソリューションで埼玉の未来を切り拓く」存在を目指す新長期ビジョン「MCP(Musashino mirai-Creation Plan)」を策定した。創業以来不変の「地域共存」「顧客尊重」の経営理念のもと、お客さまと地域に寄り添った金融仲介機能の発揮とコンサルティングの実践に努めている。



豊岡 武士(とよおか たけし)

三島市長
日本獣医畜産大学を卒業後、静岡県職員として長く勤務し、緊急防災支援室長や三島市企画調整部長を歴任しました。平成11年からは静岡県議会議員を3期務め、平成22年に三島市長に初当選。現在4期目を務めています。全国史跡整備市町村協議会やスマートウエルネスシティ首長研究会の会長など、多くの公職も兼任し、地域の発展に尽力している。



川田 翔子(かわた しょうこ)

八幡市長
1990年奈良生まれ。京都大学経済学部 経済経営学科卒業。
歴史が生活に息づく京都の暮らしに惹かれ、また「政策」を仕事にしたかったこともあり、2015年京都市役所に入庁、まちづくりや福祉など3部署約7年の行政現場経験後、参議院議員秘書として国政現場経験を経て、2023年11月、京都府八幡市長選挙で初当選。女性市長としては全国最年少。趣味は茶道、着物を着ること、寺社仏閣巡り、ランニング。



小原 芳明(おばら よしあき)

学校法人玉川学園 理事長・学園長
1946年生まれ。スタンフォード大学大学院教育政策分析専攻修士課程修了。1987年玉川大学文学部教授、国際教育室長、通信教育部長、副学長を経て、1994年玉川学園理事長、玉川大学学長、玉川学園学園長に就任。2024年3月学長退任。現在、日本私立大学協会会長、全国私立大学教職課程協会会長、私立大学通信教育協会会長、国立大学法人上越教育大学経営協議会委員を務める。主な著書・訳書に、『アメリカ高等教育の大変貌』『アメリカ大学の優秀戦略』『ハーバード大学の戦略』『授業の評価』『教育の挑戦』など(いずれも玉川大学出版部)。

磯中 克哉(いそなか かつや)

武蔵野銀行 執行役員 総合企画部長
1995年武蔵野銀行入行。
営業統括部営業企画室長、同フィンテック推進室長を歴任後、
2020年大井支店長、2022年大宮支店長兼天沼支店長、2024年4月総合企画部長(現職)、2024年6月執行役員に就任。



普天間 かおり(ふてんま かおり)

沖縄県中城村出身 シンガーソングライター
琉球王朝の流れに生まれる。透明感あふれる歌声は、何よりも大切にしているライブ活動を中心として老若男女問わずに浸透している。2011.3.11、ラジオ福島「かっとびワイド」の金曜パーソナリティー。「かっとびワイド」の生放送中に東日本大震災に遭う。その後、「Smile Again 0311」支援プロジェクトを立ち上げ、避難所でのライブやチャリティーコンサートの開催、震災後に書き下ろした楽曲「Smile Again」を音楽配信、本の街 神保町の有志の方々と協力し、福島県の子どもたちへ本を贈る「スマイル文庫」の活動も開始。音楽の枠を超え様々な分野の方々とつながりを持ちながら、その支援の輪を広げている。

【参加 首長リスト】

1	北海道 東神楽町	ひがしかぐらちょう	町長	山本 進	やまもと すすむ	会場
2	北海道 中札内村	なかさつないむら	村長	川尻 年和	かわじりとしかず	会場
3	山形県 南陽市	なんようし	市長	白岩 孝夫	しらいわ たかお	会場
4	埼玉県 美里町	みさとまち	町長	原田 信次	はらだ しんじ	会場
5	千葉県 白子町	しらこまち	町長	緑川 輝男	みどりかわ てるお	会場
6	東京都 中野区	なかのく	区長	酒井 直人	さかい なおと	会場
7	新潟県 見附市	みつけし	市長	稲田 亮	いなだ りょう	会場
8	静岡県 三島市	みしまし	市長	豊岡 武士	とよおか たけし	会場
9	京都府 八幡市	やわたし	市長	川田 翔子	かわた しょうこ	会場
10	鳥取県 湯梨浜町	ゆりはまちょう	町長	宮脇 正道	みやわき まさみち	会場
11	広島県 福山市	ふくやまし	副市長	中村 啓悟	なかむら けいご	会場
12	福岡県 飯塚市	いいづかし	副市長	藤江 美奈	ふじえ みな	会場
13	大分県 杵築市	きつきし	市長	永松 悟	ながまつ さとる	会場
14	東京都 国立市	くにたちし	市長	濱崎 真也	はまさき しんや	zoom
15	新潟県 加茂市	かもし	市長	藤田 明美	ふじた あけみ	zoom
16	福井県 大野市	おおのし	市長	石山 志保	いしやま しほ	zoom
17	大阪府 和泉市	いずみし	市長	辻 宏康	つじ ひろみち	zoom
18	大阪府 松原市	まつばらし	市長	澤井 宏文	さわい ひろふみ	zoom

※代表登壇

※代表登壇